

愛知山岳労働者

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

2023年12月14日発行

No. 607号 (第55期 10号)

〒454-0055

名古屋市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX 052-654-1411

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

天蓋山 女性部交流山行 11月23日開催



春日井峠 15、くらら 10、みどり 6、あつた 3、若駒・かわせみ・尾張 HC・同志会各 1 名の合計 38 名で飛騨の天蓋山（てんがいさん）で交流山行を行いました。峠道で道路凍結もあり、計画より一時間遅れて登山開始。登りのヤマツブ新道は思いのほか急登で息が切れしました。1000m 付近からは数日前の雪が現れ、軽アイゼンやチェーンスパイクを装着。快晴ではなかったですが、山頂からは 360 度の大パノラマ！御嶽、乗鞍、穂高、槍、薬師に立山、剣とそうそうたる眺めに歓声と笑顔が。風が冷たく、時間も押していたのでパーティごとに記念撮影し、帰りは山之村キャンプ場へと下山しました。途中、足を攣るなど不調者がでて下山が遅くなり課題を残しました。これについては 12/7 女性部会で取り上げ、今号に報告を掲載してありますので、ぜひお読みください。

《目次》

	天蓋山 女性部交流山行 11 月 23 日開催	1
	各会の紹介と山行報告 第 2 回 春日井峠の会 東三河山ぼ会	2
遭対部	12 月 8 日(金)55 期遭対冬山合宿連絡会議の報告	3
教育部	11/21(火) 第 8 回教育担当者会議を開きました	4
組織部	第 55 期 第 9 回 組織担当者会議 報告	5
自然保護部	第 5 回自然保護担当者会議の報告	6
女性部	12 月 7 日(木)に女性部会を開きました。	7
	第 55 期登山学校報告	8
	愛知県勤労者山岳連盟第 56 期登山学校、2024 年 3 月 31 日から開講	9
	第 22 回東海ブロック雪崩事故を防ぐための講習会(机上)	11
	カレンダー	

各会の紹介と山行報告 第2回 春日井峠の会 東三河山ぽ会

春日井峠の会の現況

春日井峠の会 弘中常夫

昨年創立 50 周年を迎え、コロナの制限が残る中で記念誌「峠のあしあと」を発行しました。峠の会では 5 年前から、毎週水曜日に弥勒山のハイキングを継続しています。さらに HP ブログのタイムリーな更新等により、毎年 5 名程度の入会者を迎えることができています。しかし高齢化の波には逆らえず（平均年齢 69 歳）難易度の高い山行は少なくなりました。

11 月 5 日には、昨年入会した会員の提案で金勝アルプス（参加者 22 名）を歩きました。

上桐生の駐車場から登り始め、落ヶ滝に立ち寄り沢沿いルートを通りました。鶏冠山からの合流点で小休止をし、天狗岩ではちょっとした岩登り体験ができました。天狗岩の上からは琵琶湖の湖南地帯の素晴らしい眺望が広がっています。ここから巨岩、奇岩の連続で見晴らしの良い所で振り返ると、天狗岩の全貌を見ることができます。白石峰、茶沸観音を経て竜王山で昼食を摂りました。



白石峰からの下りは急坂が続き、膝に疲れが出た頃狛坂摩崖仏があり、休憩を兼ねてゆっくり眺めました。出合から南谷林道の平坦な道が続き、新名神下のトンネルを潜り抜け、逆さ観音、オランダ堰堤を見ながら歩を進めました。逆さ観音の名は、オランダ堰堤を作るために観音様の近くの岩を切り出すと観音様がひっくり返ってしまったことに由来するそうです。出合からの単調で長い道のりもこのような逸話があれば退屈しないで歩けます。



2023 年 9 月 24 日（日） 東三河山ぽ会_公開ハイク

焼津市：満観峰（マンカンホウ） [470m]

豊橋岩屋緑地 P ―花沢の里 P…鞍掛峠…満観峰…日本坂峠…花沢の里 P― 岩屋緑地 P
6:30 8:25 10:05 11:00 13:00 14:15 16:40

出発時は曇り空でしたが、途中車中から富士山が見え期待が高まる。花沢の里に着く頃には青空も見え晴れてきた。当日は、3 パーティー 23 名の参加者(非会員 2 名)。久しぶりに山行に参加された方も多くいて、それぞれ和気あいあいと楽しく親睦出来ました。

当日パーティー：CL 大村 PL 木下、北御門



【花沢の里 P 歩き方レクチャ-】



【楽しい山ごはん調理風景】

花沢の里では森さんの歩き方講習会があり、疲れない歩き方やストックの使い方、靴紐の結び方など教えて戴け大変勉強になりました。出発してからしばらく歩くと、丁度彼岸花が群生していて、皆で写真撮ったりしました。途中立ち寄ったカフェでは、みんなケーキやデザートをゲットして満面の笑み』山頂までの道のりも丁度良く、爽やかなハイキングコースでした。



山頂に着くと目前に富士山が見えて感動しました！お天気が良かったので景色も素晴らしく、また手作りの山ご飯とデザートのフルーツポンチに舌鼓を打ったりして、大変有意義な1日になりました。
下りのルートは少し狭い道で1部藪漕ぎのようなところもありましたが、皆で無事に下山しました。

記：伊藤（小）

遭対部 12月8日（金）55期遭対冬山合宿連絡会議の報告

2023年12月8日（金）県連事務所で19時30分より、遭対冬山合宿連絡会議を開き6山岳会7名が参加しました。【参加者】樋江井（若駒）、添田（ありんこ）、伊藤義（じねんじょ）、洞井、小栗（半田F）、松本、（東三河）、佐藤（あつた）

山 岳 会		山域	コース	日 程	人 数
じねんじょ山の会		ハツ	みどり池入口㊦～本沢温泉～夏沢峠～西天狗～夏沢峠～硫黄岳～夏沢峠～本沢温泉～みどり池入口㊦	12/16 ～17	9
		中ア	駒ヶ根高原㊦～マセナギ～空木岳避難小屋～空木岳～空木岳避難小屋～マセナギ～駒ヶ根高原㊦	12/16 ～17	8

ありんこ山岳会		八ツ	美濃戸口㊦～赤岳鉱泉～行者小屋～地蔵ノ頭～赤岳～文三郎～赤岳鉱泉～美濃戸口㊦赤岳鉱泉～美濃戸口㊦	1/7～8	6
		八ツ	美濃戸口㊦～赤岳鉱泉～赤岩の頭～硫黄岳～硫黄岳山荘～硫黄岳～赤岩の頭～赤岳鉱泉～美濃戸口㊦	1/7～8	3
東三河	A	霧ヶ峰	八島湿原㊦～鷲ヶ峰～ヒュッテみさやま＝車山㊦～車山～車山㊦	1/2～3	3
	B	八ツ	稲子湯唐沢橋登山口㊦～本沢温泉～硫黄岳～本沢温泉～稲子湯唐沢橋登山口㊦	1/6～7	8
	C	南ア	夜叉神峠登山口～南御室小屋～薬師岳～観音岳～地蔵岳～観音岳～南御室小屋～夜叉神峠登山口	1/6～7	4
	D	上信	あずまや高原登山口～四阿山・根子岳分岐～四阿山～四阿山・根子岳分岐～あずまや高原登山口	1/6～7	6
半田ファミリー		南ア	夜叉神峠登山口～南御室小屋～薬師岳～観音岳～地蔵岳～観音岳～南御室小屋～夜叉神峠登山口	1/27～29	6

※その他に若駒・あつたの2山岳会が合宿計画予定で、後日計画書提出。

出された意見は、6山岳会で合宿が計画されていますが、県連全体としては合宿の取り組みが低調である。山岳会にとっての合宿の意味ををかいで話しあった方が良いのでは。温暖化により雪の降る時期が変わってきて、合宿の時期をずらした。装備で検討した方が良いパーティが見られた。過去の事故事例を参考にしてほしい等の意見がありました。冬山合宿報告会議は1月19日(金)です。

教育部 11/21(火) 第8回教育担当者会議を開きました

日 時：11月21日(火) 19時30分～ (zoom会議で実施)

参加者：くらら(吉田)、あつた(坂木)、かわせみ(野村、佐伯)、みどり(澤田)、同志会(吉川)、ありんこ(榊原) 計 6山岳会 7名

(1) 前回議事録の確認

前回議事録を確認しました。

(2) 雪山安全講習会について

① 講師分担について

講座名	講師	スタッフ
冬の装備と生活技術	ありんこ(榊原)	かわせみ(佐伯さん)
冬山の気象	部外講師(気象予報士会東海支部：大矢康裕氏)	ありんこ(榊原)
積雪期の行動技術	ありんこ(榊原)	かわせみ(佐伯さん)
冬山の危険と安全対策	ありんこ(榊原)	
実技山行 12/17	かわせみ(佐伯)、あつた(坂木)、ありんこ(榊原)	
実技山行 1/20-21	ありんこ(榊原)	

※各会の活動が会員1人1人に支えられているように、県連活動も各会に支えられています。

各会で荷を分かち合って行事を実施していきたいと思っていますので、ぜひ協力をしてもらえるよう、お願いしていきます。

② 受講の申し込み状況

東三河3名、くらら5名、かわせみ4名、半田F1名、犬山マップ5名、あつた9名、同志会1名、みどり4名、ありんこ1名、三重山好会2名、その他5名 計40名の申し込みがありました。

③講座状況

講座③は、冬の装備（アイゼン、ピッケル、ワカン）役割とそれらを使用した行動技術（雪上の登降、滑落停止技術、確保技術）を学びました。滑落停止技術では、どのように行うかを動画で把握しました。講座③の受講は zoom のみで 30 名でした。

講座④は、雪山の危険と安全対策、事故に遭わないために、過去の遭難件数の多い 5 項目にどのように対処していくかを学びました。講座④の受講は zoom のみで 28 名でした。

(3) 交流山行について

次回は、1/28 ですので、参加の呼びかけをしてくことを確認しました。

(4) 教育活動に関する意見交換

各会の今後の教育活動に役立つよう、今回は、各会で雪山にむけてどのような実技をしているか等の意見交換をしました。

各会とも、歩行（アイゼンあり、なし）訓練、滑落停止訓練がされていました。雪洞作りや雪崩救助訓練をしている会がありました。

今後も、各会が取り組んでいる現状や県連教育部にどのような活動（各会への支援等）を望んでいるかを具体的に話し合っていくこととします。どんどん出して下さい。

(5) 次回の第 9 回教育担当者会議を 2023 年 12 月 21 日（木）に 19 時 30 分より zoom 会議で実施します。各会から奮って参加をお願いします。

組織部 第 55 期 第 9 回 組織担当者会議 報告

2023 年 12 月 7 日(木)

Zoom：午後 7 時～9 時 00 分

出席者・Zoom：若駒(□中橋)、同志会(□吉川)、じねんじょ(□後藤)、春日井(□落合)、東三河(□戸田)、あつた(□松岡)、スルジェ(□杉田)、みどり(□下山)、ありんこ(■榊原)、

1) 組織数の推移・入退会理由――

各会の状況 ―― 11 月末の組織数など、集計中

2) 趣意書の改定作業の報告、―― 11 月 24 日(金)

全国連盟小池事務局長・吉永理事・山本理事・吉川 4 名

検討委員会の議論の要点

- * 改定の端緒・スタートが、趣意書が分かり難いとか言葉が難しい、ということからに始まっているようで、全体に分かり易い言葉にするよう努める。
- * 基本的な文言を変える場合は理事会の議による。
- * 自然保護など社会情勢の変わっている個所は、改定、追記する。
- * 時系列の表示など、明らかに変わっている個所は訂正する。
- * 「趣意書」の趣旨を実現する組織論、運動論を取り入れるように検討する。
- * 上記、例えば「登山技術や遭難対策は―――集団の力によって高められていく」、趣意書 3. 登山の多様な発展について、「それぞれの意識や年齢、生活条件によって、多様な形態と内容の登山が求められてい。」が、それを実現していく為の組織づくり、運営はどのようにしていくのか、―――などについて検討する。
- * 登山の多様な発展は、会員一人ひとりにとっての多様な発展はどのように保障するのか、つまり民主的な運営、即ち個人の尊重、それによる個性の多様な発展としての登山の発展を関連付けて述べるようにする。

[出された意見]

- * 現在、1978 年の趣意書があり、労山の趣旨がきちんと述べられているのであって、こ

れを改定する意義・必要性ははどのようにあるのか。

3) 組織部交流山行 ――2月4日(日) 場所――各務原アルプス。坂祝～明王山～八木三山

- * 遠隔地の理事、普段対面で出られない理事がおり、その交流をする。
- * 地図読み山行、初回の山行に使えないかチェックする。

4) 第56期一般向け登山講座、―― 来期第56期に向けて検討事項

① 日程及び講習の組み方の検討

- * 講座の日程について、1日3講座、2日間の予定で組み、短期間に講座を行う。
- * 実技山行の日程で、9月中旬ではまだ暑いのではないかな。
- * 名古屋市の後援を取る条件として、50人規模の行事と言われている。講座の50人規模は可能だが実技山行の50人規模は難しいのではないかな。
- * 間口を広くして講座の受講生を増やし、会員拡大も条件を広げる事は良いのではないかな。
- * その上で実技山行を組み参加者を募り、CL、SLの可能な範囲で実技山行を行なう事も検討。
- * 実技山行は涼しい時期に行う、又は眺望の良い山など従来の山域に限らず山域を検討してはどうか。
- * 上記には交通手段の検討が必要となる。
- * 会に入会した受講生の意見として、講座は楽しくなかったが実技山行は楽しかったという意見があった。
- * 以上について、検討を進める。

6) 愛知平和行進の準備

学習会を開催する。――コロナ禍で従来平和行進に参加していた人が不参加になっていた。運動の継承の為に初歩から学習できるように段取りし、参加者数を取り戻す。

3月7日(木) 原水爆禁止愛知県協議会(愛知県原水協) 佐竹氏

- * 演題 : 今年の平和行進の意義。世界と国内を取り巻く情勢と私たちの課題
- * Zoomの活用で視聴者を増やす。担当者会議会議の参加者に限らず、視聴できるようにする。
- * 記録をきちんと残す。
- * 事前の宣伝を労山愛知で行う。2月号、3月号。

7) 県連盟ホームページの件、:[別紙]

12月14日(木)理事会までに取りまとめを進めている。

自然保護部 第5回自然保護担当者会議の報告

2023年11月17日(か)19時30分から、第6回自然保護担当者を開きました。7山岳会10名が参加しました。【出席者】山本(みどり)、大倉(くらら)、藤井(若駒)、佐藤(あつた)、【ZOOM出席者】荻谷・高津(ふわく)、山田(同志会)、
内容:各会合同清掃登山実施状況を出し合い、今後の清掃登山の予定などについて話し合いました。

第 55 期 各会合同清掃登山 11 山岳会 189 名参加 (13 名一般参加者) 合計 202 名

山岳会名	日時	山城	参加人数	可燃	不燃
東三河山ぽ会	9 月 17 日	本宮山	17	1.6	5.7
犬山マップ	10 月 8 日	継鹿尾山・東海自然歩道 (犬山)	5 (1)	5.7	5
ふわく山の会	10 月 14 日	鳩吹山	9	0.7	0
		本宮山	13	0.2	0
		三瀬明神山	4	0.1	0.4
スルジェ山の会	10 月 15 日	弥勒山	14 (6)	2.8	1.7
春日井峠の会			17	7.5	6.5
半田ファミリー山の会	10 月 15 日	猿投山	25 (3)	3.3	2.9
名古屋山岳同志会	10 月 22 日	岩古谷山～平山明神山	12	0.5	0.4
かわせみ山楽会	10 月 22 日	葦毛湿原	8	0	1
山の会 くらら	11 月 12 日	海上の森	46 (2)	14.6	43
若駒			13 (1)		
あつた			6		

女性部 12 月 7 日 (木) に女性部会を開きました。

出席は 5 山岳会 5 名 (あつた、みどり、くらら、若駒、峠)

11 月 23 日 (日) の女性部交流山行 (飛騨地方・天蓋山) で、いくつかの要因が重なって、下山遅れが起きました。そこでパーティごとに気づいたことや交流山行全体について検討しました。

計画では金山から入山口まで 3 時間だったが、実際は 4 時間かかり、登山開始が遅れた。そのため、折角の交流山行だったのにパーティでの自己紹介もないまま出発してしまい、メンバーのことも分からず歩いてしまった。→ゆとりある場所を設定する。

上部で積雪箇所があり、軽アイゼンやチェンスパイクが役立った。ただ初めて付ける、装着に慣れていない、歩行中外れる、壊れていて使えず予備のものを借りたなど、時間増加の要因となった。アイゼンを付けての下りは慣れてない人にとって恐怖感・緊張感が強かったという報告もあった。→各山岳会での勉強会等で訓練が行われている会もあるが、各自が事前確認をするよう伝えるべきであった。

行動中、足を攣った方が 2 人あり、参加者の中の看護師さんにマッサージを施してもらって回復した。不調な人の荷物を他の人が好意で持ったが、荷物を持った人と持たれた人が離れてしまった。不調者がグループメンバーを先に行かせて離脱した。それらに伴い、パーティ編成が崩れたり、再編成するなどして時間遅れにつながった。→メンバーにどんな方がいるか事前把握しておく。アクシデントに対応するためにも全体の CL、SL とパーティとで定時連絡を取る (山城に

もよるが携帯や無線機で)。最後尾にトラブル対処のグループを置くことを検討する。

交流山行ゆえに発生した問題も多いが、今回の反省や課題を各会それぞれで共有して活かしていけば、今回の交流山行も有意義なものとなるでしょう。次年度の交流山行がより良い山行となるよう考えていきたいと思います。

第 55 期登山学校報告

9 月の月上旬に実施された研修山行をもって、4 月より開校、実施してきた第 55 期登山学校が終わりました。

コロナは第五類に移行していくことになりましたが、昨年実技ではクラスター感染の発生もあったこともあり、引き続き慎重な判断と柔軟な対応を求められる登山学校の実施となりました。

受講生は 7 山岳会から 12 名、マウンテニアリング・コースの受講生がなく、全員がクライミング・コースの受講生でした。オンラインとのハイブリッドで理論講座 14 回（確保技術講習会、無雪期救助訓練など県連行事の理論も含む）を実施しましたが、より理解度を高めるために、会場での受講を積極的に呼びかけました。

今期、カリキュラムを消化することはできましたが、対応できるコーチング・スタッフの顔ぶれは昨年より更に限られたこともあり、実技を複数日程に分散対応することも余儀なくされました。また、実技中に受講生 1 名の負傷があり、事故を発生させてしまったことは誠に残念であり、反省すべきと感じています。今後、事故を発生させない強い決意で検証を行い、事故報告を行うと共に登山学校内で共有しました。

昨年一昨年と、この終了報告の中で、「後続くコーチング・スタッフを育て、愛知県連の会員教育の看板ともいえる登山学校を維持発展させていくことが大事ではあるが、意気込みだけでは、継承できない厳しさがある」ことを述べました。今期は一層強く感じる一年となりました。

受講者の感想

登攀技術を学びたくて登山学校に入校したが、実技は想像していたよりも自分にとっては厳しいものだった。今まで重いザックを背負って岩を登ったことはなく、思うように身体が持ち上がらずバランスをとるのも難しかった。しかし、いつもと違う環境で体験することにより、自分の体力や技術面の弱点を認識することができた。

理論講座では、岩登りの基礎から地図読み、気象、パーティー論、体力トレーニング論など、どれも中身の濃い講義内容でとても勉強になった。仕事の都合で、県連事務所集合では間に合わない講義も、Zoom のおかげで参加することができた。

登山学校で学んだことを自分の会で活かせるよう復習していきたいと思います。

長かったような短かったような、楽しかったような辛かったような、振り返ると夢を見ているような日々でした。実技では、当日出来なかったことを、次回までに出来るように練習し、次回やっぱり出来なかったことや間違っただけで覚えたことを、またやり直す、その繰り返しが無限に続きました。なので、実技が終わった日は、たいてい落ち込んでましたが、そんな時は、見計らったようにコーチから叱咤激励のメールが入ったりして、随分助けてもらいました。

自分自身は、登山学校入学時よりも、もっと山に行きたい！もっと知識も技術も経験も深めたい！もっと仲間と一緒にいたい！という気持ちが強くなっています。来期の登山学校開校に向けて、各会の理解と支えをお願いして、第 55 期登山学校の終了報告とします。

愛知県勤労者山岳連盟第56期登山学校 2024年3月1日から開講

愛知県勤労者山岳連盟第56期登山学校を、下記の2コースで開校します。

マウンテナリング・コースは、山を歩くための生活・行動技術、パーティーとしての基本的な行動や考え方を学び、安全な登山の総合的な力量を身につけます。

クライミング・コースは、登攀具の初歩的な使い方から岩登りの技術、安全についての理解と認識を高めていきます。

登山の基本的な知識・技術を体系的に学び、「連れていってもらおう」登山者ではなく、総合力を身につけた自立した登山者になることをめざします。多くの仲間の受講を呼びかけます。

1 定員 マウンテナリング・コース、クライミング・コース ともに10名程度

2 応募資格、申し込み方法

資格は特に限定しませんが、学ぶ意欲、体調管理ができること、きちんと歩く力があること。

(実技の前に課題を配布しますので、ロープワークなどは予習のこと)。

労山基金に10口加入していること。(安全対策基金を活用し、開催されています)

入校申込書兼推薦書に必要事項を記入し、下記まで申し込んでください。

(必ず所属山岳会の会長が推薦理由を記載し、登山学校事務局へメールで申し込んで下さい)

【申し込み先】 愛知県勤労者山岳連盟 登山学校事務局 tozangakko@gmail.com

3 受講料 各コースとも33,000円(机上講習、実技講習代、テキスト代を含む。実技講習にかかる交通費、装備等は各自別途実費負担) ※クライミング装備をそろえるのにお金がかかります。理論講座を受講してから購入するようにしてください。あわてて買ってしまうこと。

4 カリキュラム *基本的に、遅刻、欠席は認めません。 *宿泊を伴う実技等の開催は、状況に応じ対応

【理論講座(マウンテナリング、クライミング共通)】 *オンライン受講は、状況に応じ対応

開 講 日	テーマ ()内は講師	講 習 内 容
2023年 3月31日(日) 8:30~16:30	労山運動の理念 ①登山の動機と意義②組織論／③遭難事の防止／ ④自然保護 登山の計画～下山まで ① 計画書の意味／装備と食糧 (洞井)	開校式を兼ねています。何気なく山に登っている自分をまず見つめてみましょう。登山者として必要な「山に入る姿勢」と「なぜ山に登るか？」を考えます。 また計画書の重要性を通して、自分が所属している山岳会の意味や登山の危険と安全、その防止のための登山の基礎的な知識やルールなど登山の基本について考えます。
4月 1日(月)	岩登りの基礎Ⅰ (三島)	岩登りについての考え方、具体的・基本的な知識、用具の解説、ロープワークについて学びます。
4月 8日(月)	岩登りの基礎Ⅱ (三島)	岩の登り方・確保の方法についての注意点など、クライミングにおける技術とルール、その実際を理解します。
4月15日(月)	登山の計画～下山まで ② 生活・行動技術(洞井)	山での生活の基本、行動上の注意点、歩き方や危険箇所の判断・通過の仕方などについて学習します。
4月22日(月)	地図の読み方・使い方 (板倉)	地図の実践的な使い方、読み方を学ぶとともに、計画書作成に不可欠な概念図の書き方について学習します。
5月13日(月)	気象Ⅰ (相澤)	天気図と山の天気的基础を学びます。天気予報だけではわからない、気象のあれこれが見えてきます。

5月20日(月)	気象Ⅱ (相澤)	天気図が書けるだけでなく読めることが必要です。天候の予測、次の行動の判断ができるようになるかな？
5月27日(月)	パーティー論・リーダー論 (洞井)	パーティーが安全に登り、確実に下山できるようにリーダーやメンバーが果たすべき役割と責任は？
6月3日(月)	沢登りの基礎 (岩田)	岩登り、生活・行動技術など総合的な力を要求される沢登り。その装備や技術について学びます。
6月10日(月)	確保技術講習会(机上) ※県連遭対部行事(三宅)	岩登りや沢登りに不可欠な確保技術。正確な知識と安全な確保とはどのようなものか、を学びます。
6月17日(月)	無雪期救助訓練(机上) ※県連遭対部行事(清水)	県連の救助訓練に参加します。山行中に起きた事故を想定した救助の基礎的で実戦的な知識と技術を学びます。
6月24日(月)	体力・トレーニング論 (野村)	登山に必要な体力づくりを効果的におこなう方法を学びます。日常的に実践できるようになりましょう。
6月22日(土) 9:30~16:00	救急救命法 ※県連遭対部行事(森)	ファーストエイド。山行中のアクシデントや疾病に対処できる実戦的な知識・技術を学びます。
7月1日(月)	登山の危険と安全対策 (森)	山では危険のあることを知り、安全な登山をしていくことは登山者の責任。事故事例を検証し、他に学ぶことで、どうしたら安全な登山ができるかを考えます。

【実技】M：マウンテンアリングコース、C：クライミングコース、MC：両コース共通

実施日程	区分	山域(予定)	備考
4月13-14日(日)	MC	南山(豊田)ゲレンデ	テント泊。基本の「き」を学ぶ
4月20日(土)	M	鈴鹿・烏帽子岳(予定)	山歩きのおもしろさを実感
4月21日(日)	C	南山(豊田)ゲレンデ	いよいよ、岩場で実践
5月12日(日)	C	鈴鹿・藤内壁	岩登りの基本を反復しながら確認
5月18-19日(土・日)	M	鈴鹿南部(未定)	幕営・生活技術を習得する
5月26日(日)	C	鈴鹿・藤内壁	岩登りの基本を反復しながら確認
6月9日(日)	C	鈴鹿・藤内壁	岩登りの基本に習熟する
6月16日(日)	MC	比良(予定)	確保技術講習会実技 ※県連遭対部行事
6月23日(日)	MC	鈴鹿・藤内壁周辺	救助訓練 ※県連遭対部行事
7月6-7日(土・日)	MC	鈴鹿周辺(予定)	1日目読図、2日目沢登り
8月17日(土)	M	中央ア・烏帽子岳	研修山行を見据えた実技
8月18日(日)	C	鈴鹿・藤内壁	研修山行を見据えた実技
8月31-9月1日(土・日)	M	八ヶ岳	研修山行 ※8月19日(月) 打合わせ
9月7-8日(土・日)	C	八ヶ岳・阿弥陀南稜～小同心・中山尾根(予定)	研修山行 ※8月19日(月) 打合わせ

登山学校の理論講座は、労山会員なら誰でも受講可能です。(一講座 500 円)

「学びたい!」と思う講座をチョイスして聞くことができます。この機会を有効に使いましょう! 有料ですが、普段なかなか会では学べない内容の講座をラインナップしています。講座当日、19時半までに県連事務所へどうぞ! 県連登山学校のテキストも、希望者には頒布(1000 円)しています。当日の講師の補足資料(受講者に配布)とあわせてご利用ください。

第 22 回東海フロック雪崩事故を防ぐための講習会（机上）

2023 年 11 月 19 日 県連事務所 9 時より 16 時まで

参加山岳会：岐阜 6 名、静岡 5 名、愛知 9 名（若駒 4 名・あつた 4 名・同志会 2 名）、コーチ、スタッフ 4 名の合計 24 名

はじめに講師の紹介の後、午前は ASC の水野さんが講師で、雪崩に合わないために、雪質、雪の積雪状況、雪崩の発生メカニズム。入山・行動判断、何が危ないか。危険なところに長くさらされていない事（早く通過する）が大事＝リスクマネジメントをする事を学びました。午後はあつたの宮田さんが講師で、雪崩にあったら、雪崩はどこでも起こるわけではない。正常性バイアスとは。三種の神器（雪崩ビーコン、シャベル、プローブ）は、個人装備。雪崩にあったら＝セルフレスキュー＝コンパニオンレスキュー。ビーコンの使い方（各モード）サーチモードの検索使い方、電波特性。搜索法 エアポートアプローチ。ビーコンチェックの方法をグループに分かれ実施。雪崩に遭ったら＝プロービング方法。シャベル操作（掘り出し方法）＝気道の確保＝頸椎固定。低体温症に対する注意、対策としては、保温・加温をする。エアレスキュー（ヘリコプター救助）。まとめとして雪崩に遭う確率は低いが一度会うと死に至る確率が高い＝雪崩に遭わないリスク管理地形、積雪により、弱層を客観的に判断。雪崩にあったらエアポケットの確保。雪崩による遭難は 15 分を超えると急激に生存率が下がる。ビーコンの特性を知り、使い方に慣れておく。二次遭難を避けることを学び、最後に那須での雪崩事故の再現ビデオを見て終了しました。



【編集後記】今朝の朝日の一面。「安部派裏金 5 億円か」という記事。そしてそのすぐ下には、大谷の契約金が 1015 億円と。同列にするつもりはありませんが、どちらもあまりに私たちの感覚からかけ離れた世界の話で、もう笑うしかない年の瀬です。（事務局 井土）

ご意見、ご要望・投稿・写真などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com

Schedule 2024

2024 年 1 月			2 月			3 月		
1	月		1	木		1	金	
2	火		2	金	遭対担当⑤	2	土	
3	水		3	土		3	日	第 56 期総会
4	木		4	日	積雪期救助訓練実技	4	月	
5	金		5	月		5	火	
6	土		6	火		6	水	
7	日		7	水		7	木	
8	月	(成人の日)	8	木	理事会⑬	8	金	
9	火		9	金		9	土	
10	水		10	土		10	日	
11	木	理事会⑫	11	日		11	月	
12	金		12	月	(建国記念の日)	12	火	
13	土	東海 B 雪崩講習	13	火		13	水	
14	日	東海 B 雪崩講習 交流山行(組織部)	14	水		14	木	
15	月		15	木	組織担当者会議⑪ 女性部部会⑪	15	金	
16	火		16	金		16	土	
17	水		17	土	第 36 期全国総会	17	日	
18	木	組織担当者会議⑩ 女性部部会⑩	18	日	第 36 期全国総会	18	月	
19	金	冬山合宿報告会議	19	月		19	火	
20	土	雪山安全講習会 実技山行(テント泊)	20	火		20	水	
21	日	雪山安全講習会 実技山行(テント泊)	21	水		21	木	
22	月	積雪期救助訓練机上	22	木		22	金	
23	火		23	金	(天皇誕生日)	23	土	
24	水		24	土		24	日	
25	木	教育担当者会議⑩	25	日		25	月	
26	金	自然保護担当⑦	26	月		26	火	
27	土		27	火		27	水	
28	日	交流山行(教育部)	28	水		28	木	
29	月		29	木	理事会⑭	29	金	
30	火					30	土	
31	水					31	日	